

「いきいき運転講座」 活動好事例

リーダー用教材

安全運転をつづけていただくために

いきいき運転講座



「交通安全のトレーニング」と「交通脳トレ」を組み合わせた高齢ドライバーのための新しい交通安全教育プログラム

高齢者交通安全教育推進委員会
一般社団法人 日本自動車工業会

+

「いきいき運転講座」教材

脳を活性化して、いきいき運転・いきいき生活

交通脳トレ3ヵ月

「交通安全トレーニング」と組み合わせて使う教材



「交通安全のトレーニング」と「交通脳トレ」を組み合わせた高齢ドライバーのための新しい交通安全教育プログラム

監修 高齢者交通安全教育推進委員会
発行 一般社団法人 日本自動車工業会

はじめに

一般社団法人 日本自動車工業会は、高齢者の交通安全力を高めるための交通安全教育プログラム「いきいき運転講座」を開発し、普及に努めてまいりました。2008年8月に発表して以来、多くの団体のみなさまから教材のお申し込みをいただき、ご活用いただいております。

「いきいき運転講座」の特色は、脳を活性化して、話し合いながら学ぶという、これまでにないユニークな考え方でつくられている点です。

実施された団体のみなさまからは、

- 楽しく勉強ができるから身につく
- 話し合ったことは忘れない
- 楽しくて時間がたつのが早い
- 社員教育や学校教育にも使え、効果を上げた

などの声をいただいております。

この好事例集は、「いきいき運転講座」を活用された団体のみなさまのご協力を得て、講座開催のポイントをまとめたものです。

高齢者のみなさまはもちろん、社員教育や学校教育のほか、幅広く地域、職域での交通安全活動にご活用いただければ幸いです。

なお、作成にあたりご協力をいただきました関係各位に、改めまして感謝申し上げます。

一般社団法人 日本自動車工業会

2012年1月

★教材は、一般社団法人 日本自動車工業会のホームページからもダウンロードすることができます。<http://www.jama.or.jp/>の「いきいき運転講座」のバナーをクリックしてください。

目次

警察	①兵庫県福崎警察署 老人クラブを対象にした交通安全講習会 ----- 3
	②京都府田辺警察署 住民センターの講座として「50歳からの脳トレ講座」を実施 --- 7
交通安全協会	③-1 倉敷市水島交通安全協会 老人クラブを対象に「いきいき運転講座」 ----- 15
	③-2 倉敷市児島交通安全協会 老人クラブの要望に応じて「春蘭交通大学」(全12回)を開催 --- 18
自治体	④三重県鈴鹿市防災安全課 高齢者の交通安全教室で「いきいき運転講座」を活用 ----- 22
	⑤神奈川県平塚市くらし安全課 老人クラブ対象の「いきいき生活応援講座」自転車編 ----- 25
JAF	⑥JAF 福岡支部 シルバー・セーフティ・ドライビングスクールで 「いきいき運転講座」を活用 ----- 29
自動車教習所	⑦マイマイスクール交通安全センター 地域の交通安全指導者のための「脳トレ・リーダー講座」 --- 35
企業	⑧セキスイハイム近畿株式会社 社員の交通安全研修に「いきいき運転講座」を活用 ----- 42

兵庫県福崎警察署

老人クラブを対象にした交通安全講習会

——「交通脳トレ」と「危険予知トレーニング」レベル1を使って——

● 事例

- ・取材日：2011年9月20日（1時30分から2時30分）
- ・会場：兵庫県福崎町余田公民館
- ・主催：余田地区自治会。老人クラブ、民生委員、交通安全協会が協力
- ・参加者：22名
- ・頻度：余田地区では毎年1回、秋の交通安全運動に合わせ交通安全教室を実施
- ・タイムスケジュール

時間	分	項目
		参加者をグループ分け
13:30～13:35	5分	開会あいさつ（地区長）
13:35～13:40	5分	地域の交通事故状況 ・事故件数が減っているのに、死者数は今年増えている
13:40～13:50	10分	交通脳トレ ・文字ひろい ・計算問題・音読 ・間違いさがし
13:50～14:25	35分	危険予知トレーニング
14:25～14:30	5分	おわりのあいさつ（民生委員）

● 実績

項目	内容
実施主体	福崎警察署
担当者	交通総務課 寒竹政和さん
展開内容	地域の高齢者を対象にした交通安全講習会で活用 内容：「交通脳トレ」と「危険予知トレーニング」 時間：1時間、参加費無料
回数、参加者数	2010年11月～2011年10月：開催回数19回、参加者数713人
募集方法	老人クラブが募集する。講習担当者の負担はない
費用（1回当あたり）	受講者用教材として「ワークシート」「今日、覚えてほしいこと」 「交通脳トレ」のカラー出力代
講座受講者の反応	わきあいあいの雰囲気が進められて大変良い

● インタビュー

和気あいあいで1時間があっという間

福崎警察署交通総務課 寒竹政和さん



2年前に福崎署に来て、初めて交通安全教室を担当することになりました。1年目は子どもの教室が中心でしたが、2年目から市役所を通じて、高齢者講習の依頼がたくさん来るようになりました。

そんな時に、本田技研工業(株)安全運転本部鈴鹿普及ブロックの方が「いきいき運転講座」を紹介してくれました。交通安全協会の方と一緒に、講師のデモンストレーションで「危険予知トレーニング」のレベル1を体験し、指導法を学びました。

教え込むのではなく、参加者が意見を言いながら進めるやり方は、楽しいし、人の意見を聞けるので勉強になります。なかなかいいと思いました。

「教え方を忘れないように、2週間以内に講座を開いてみて」と講師に言われ、さっそく試してみました。教わった通りにやったら、最初からうまくでき、今日のように、和気あいあいと1時間があっという間にたちました。

[講座を行う上でのポイント]

● 「ワークシート」に沿って進めるだけで、話し合いを引き出せる

教材が使いやすいですね。受講者用「ワークシート」に沿って質問を投げかけていけば、スムーズに進めていけます。これまで講座を開く上で困ったことはありません。参加者の反応も大変よいですね。話し合いながら進めるというやり方はこれまでにありませんでした。参加者は話すことで活気づいて、楽しいという。参加者が考えたり話し合っている間は、私はしゃべらなくてすむので、講師として負担がなく、楽にできるということもよいですね。

● 特別な機材が必要ないテーマを選び、手軽に開催

講座は「交通脳トレ」と「危険予知トレーニング」のレベル1を組み合わせで行っています。準備するのは、参加人数分の教材のカラー出力紙と、危険箇所を記すため、安くまとめ買いしておいたソフトペンだけ。パソコンなど電子機器を使わなくてもよいので、どこでも手軽にできます。

● 1回当たりの費用はワークシートのカラー出力代だけ

講座ごとに必要なのは、「交通脳トレ」と「危険予知トレーニング」の教材のコピー代です。費用節約のために、カラーコピーを使わず、パソコンでカラー出力しています。

最初、「交通脳トレ」の問題はパウチし、水溶性ペンを使って回答してもらっていましたが、次の講座のために文字を消す作業が大変で、それ以来、「交通脳トレ」もカラー出力に切り替えました。

● 使った教材はお土産として持ち帰ってもらう

コピーはカラーでなくて、モノクロでもよいのでは、と思う方もおられるでしょう。でも、危険予知トレーニングは、交通状況をつかんでもらうことが大事なので、カラーの方が高齢者のみなさんにはわかりやすいと思います。

また、指導者研修で、「参加者は、使った教材をお土産として持ち帰りたいものだ」、ということを教わりました。モノクロ出力よりは費用はかかっても、カラー出力する価値があると思います。

● 班長選びは軽い感じで依頼する

全体の進行を私がやり、班ごとに司会をする班長さんを選んでもらいます。「人のいうことをちょっとメモしてもらえばいいんですよ」と軽い感じでお願いしています。難しいことを言うとな人は引いてしまいます。頼むと素直に引き受けてくれます。

● 免許のない人には「○○」のつもりで

参加者は、免許のない方もおられるので、ドライバーの隣に座っているつもり、自転車に乗っているつもりで、話し合いに参加してもらいます。違う立場の意見が出て、勉強になるようです。

みんなに考えさせ発表させる教室は、新鮮でよかった



余田地区民生委員
牛尾春美さん

みんなに考えさせて発表させる教室は、一方的でなく、新鮮でよかったですね。今日は、ビデオを使わずに講座を進めるといわれたので、標識やルールの話だけになって、実はみなさん退屈するのではないかと心配していました。でも、そんな心配をする余地もありませんでした。新しい手法のおかげで、1時間があっという間でした。

福崎町では、月1回、自治会がミニデイサービス事業を行っています。公民館などに地域のお元気な高齢者のみなさんに集まっていただき、イベントなど楽しい交流会を行うもので、民生委員や老人会などが運営に協力しています。

今日は、ミニデイサービス事業の開催日で、午前は手芸教室、お昼を挟んで、午後「いきいき運転講座」を行いました。

参加したみなさんのコメント



みんなで
相談してやれたのがよかった。
街にはたくさん危険があることが
わかりました。

写真を使った交通安全講座は
初めてです。
みんなで話し合いをすることがいいですね。
自分が思っているのと違う意見が出ると、
そういうこともあるんだなと勉強になります。
考えて話し合うことは、
脳にもいいと思います。

みんなの前で
個人の意見を出せといわれると
ヒヤヒヤします。でも、今日のように
みんなで話し合ったことを発表できると、
緊張しなくてすむ楽しいです。

このようなユニークな教室は初めて。
たんのうせんで（満足するという意味）
できたのがよかった。

一方通行だとしんどいし、
あきがきて居眠りしてしまいます。
みんなでやれるから退屈しません。

[開催風景]



会場となった
兵庫県福崎町余田公民館



■準備
・参加者を小グループに分け、
班長を決める
・教材のコピーと筆記用具を配布



■主催者のあいさつ
依田区長



■地域の交通事故状況と
重点施策の説明
・すべての席でシートベルトを
・夜間外出の際は、反射材を付け、
車から目立つようにする



■交通脳トレ
・文字ひろい
・計算、音読
・間違いさがし



■危険予知トレーニング レベル1
・見えている危険、
見えていない危険に印をつける



・班ごとに、印をつけた個所と理由
を一人ずつ発表し、話し合う
・班長は、印をつけた個所と意見を
メモする



・班長が、班で出た解答と理由を発表



・進行役が、班から出た解答を黒板
に書きとめる



・解答用紙を配布して、解答を確認



■「今日、覚えてほしいこと」
・参加者に順番に読んでもらう



■おわりのあいさつ
地区民生委員

京都府田辺警察署

住民センターの講座として「50歳からの脳トレ講座」を実施 ——「交通脳トレ」と「いきいき運転講座」を組み合わせた5回連続講座——

● 事例

- ・取材日：2011年9月15日 10時から12時
- ・会場：京田辺市中部住民センター
- ・主催：京田辺市中部住民センター、田辺警察署
- ・参加者：3名（この日は猛暑のため欠席が多かった）
- ・頻度：連続講座全5回（6月16日から10月20日まで毎月1回第2木曜日）
- ・タイムスケジュール

時間	分	項目
		準備
10:10～10:25	15分	開会あいさつ、講習内容説明
10:25～10:27	2分	交通脳トレの進み具合確認
10:27～11:00	33分	地域の交通事故状況 ・地図と事故発生場所の写真で解説
11:00～11:50	50分	ヒヤリ体験を生かす ・ワークシートに取り組み、解答を発表（20分） ・ヒヤリ地図作りの説明（3分） ・ヒヤリとした場所にシールを貼る（5分） ・自分がシールを貼った個所を発表しあう（22分）
11:50～11:55	5分	「今日、覚えてほしいこと」を交代で読み上げる
11:55～12:00	5分	おわりのあいさつ

● 実績

項目	内容
実施主体	京田辺市中部住民センターと田辺警察署
担当者	田辺警察署交通課 古川めぐみさん、池田垂岐子さん
展開内容	京田辺市中部住民センターの生涯学習事業の1つとして実施 名称：「50歳からの脳トレ講座」（全5回） 内容：5回中4回を「交通脳トレ」と「いきいき運転講座」を組み合わせたトレーニングを実施 時間：2時間、参加費無料（ただし、講座登録料として200円を中部住民センターに支払う）
回数、参加者数	・2009年11月より、前期（6月～10月）と後期（11月～翌年3月）に分けて実施。これまでに連続講座を4期実施（開催回数20回）、参加者数のべ160名
募集方法	・中部住民センターが生涯学習事業を紹介するために年2回、市内全戸に配布する「学びの情報誌」で募集
費用（1回当あたり）	・「交通脳トレ3ヵ月」は、日本自動車工業会から無償提供 ・プレゼント（反射材、交通安全文字入りクリアファイルなど）は、交通安全協会の提供
講座受講者の反応	・役に立つ、運転が変わったなど大変好評

● インタビュー

話し合いを通して、高齢者の意識が変わっていきます

田辺警察署交通課 古川めぐみさん、池田亜岐子さん

「50歳からの脳トレ講座」は今回で4回目です。面白かった、勉強になった、気づきがあったと、参加者のみなさんの反応がとてもよいですね。

5回連続講座(毎月1回)で、「いきいき運転講座」の4種類の交通安全トレーニングを取り上げます。

交通安全について、参加者の方々が自分の意見を述べ、他の方の話聞く、という場はこれまでに少なかったと思います。話し合いの中で、これまで気づけなかった自分の問題点を見つけたり、「そういう考えの人もいるのだ」と交通安全について目線を広げていただくことができます。「いきいき運転講座」には、集合型の交通安全教室では得られないものがあると実感しています。



[講座を行う上でのポイント]

● 台本に書かれたポイントを押さえる

私たち2人が進行役になって実施しています。「いきいき運転講座」は、指導者にとって取り組みやすい講座だと思っています。台本に、伝えるべきポイントや、話し合いの進め方がわかりやすく書かれている。よく考えてつくられているので、話すのが苦手な方でもやりやすいと思います。

● 50歳代の方も対象に入れる

高齢者の交通行動の特徴を早い段階から学習することが大切だと思い、参加者募集の対象を50歳代の方に広げました。

● 参加者に、意見をたくさんいってもらおう

高齢者の方々は、交通安全について話をしながらない、と思われがちですが、それは、これまで意見を言える場がなかったから。高齢者のみなさんは、話したい気持ちが強く、質問を投げかければ、体験を交えて、いろいろ話してくれます。

できるだけ、意見を言ってもらい、じっくり聞くようにしています。「自分の意見が言えた」と喜んで帰られる方が多いですね。

● 運転免許のない人も一緒に

講座には、運転免許のない歩行者、自転車利用者にも参加してもらっています。

ドライバーは、歩行者、自転車利用者にもなり、3つの視点で考えることができます。運転免許のない方は、四輪車の立場がわからない。「車の目線で考えたことがなかったので、ドライバーの話は勉強になった」と言われます。

● 話し合いは行動を変える力がある

今日、参加者の発言で印象に残ったのは、運転免許がなく自転車に乗っている方が、「一時停止標識のある所で止まらないといけないということが身をもってわかった」と話してくれたことです。人数は一人ですが、意識が変わったということは大きなことです。

この方は、前回の講座で「停止線でなぜ止まらないといけないかわからない」と発言されました。

なぜ、考えが変わったのか。前回、停止線で四輪車が止まらないメリット、デメリットを話し合ったのがきっかけで、普段の生活の中で停止線を意識するようになったそうです。実際に、停止線で止まらずに出てくる車に出会ってひやりとする体験もされ、「停止線」の意味がわかったといわれました。

どれだけ私たちが、「一時停止標識のある所で止まるのはルールです」とお話ししても、「それはわかっている」で、これまでは終わってしまっていたと思います。

[講座を行う上でのポイント]

話し合いの中で、今まで意識しなかったことが意識され、自分の中で掘り下げ、次に「こういうことだった」とつなげられるのはすごく意味があると思います。

● 自己紹介の中に、日常活動を聞く質問を入れる

たがいに知り合うために自己紹介は大切ですが、運転のことだけでなく、「いきいき運転・いきいき生活」レベル1の、みなさんの日常活動を聞く質問を入れることをお勧めします。

みなさん、驚くほど意欲的に、趣味や地域活動に参加されています。「活動的な人ほど長生きで、交通安全意識も高い」という教材のメッセージは、参加者に元気を与えます。

運転のことだけでなく、趣味や地域活動など、日常生活の話盛り込むと、その人の性格や交通行動の傾向がつかめ、指導者が話し合いを進めていく上でよい参考になります。

● 「ヒヤリ体験を生かす」では、個人別に地図を用意

今日の「ヒヤリ体験を生かす」では、参加者ごとにお住まいを中心とした地図を1枚ずつ用意しました。

全員で、1枚の地図にヒヤリ個所を示すシールを貼ってもらうのが理想です。しかし、参加者のみなさんは市の全域から集まってくるため、住むところがバラバラで、1枚の地図におさまらないからです。

ヒヤリ体験の発表はお1人ずつにお願いし、シールを貼ったところの交通状況を重点に説明していただきました。

● みんなで盛り上がる、ミニカーを使った「危険予知トレーニング」

「危険予知トレーニング」は、レベル1からレベル3までいろいろ取り組んでみました。ドライバーの方からは、どの問題でも意見がよく出のですが、免許を持たない歩行者や自転車の方は、写真を見ただけでは何が危険かわかりにくいようでした。

免許を持たない方も参加されるときは、ミニカーを使った「危険予知トレーニング」レベル3をお勧めします。ミニカーを使って写真の交通場面を再現することによって、車を動かしながら考えられるので、歩行者、自転車利用者からたくさん意見が出てきます。

● 「自分の運転を振り返る」は、問題行動の確認によい

「自分の運転を振り返る」で、いつも利用しているのは、レベル1の「信号機のない交差点の通過」です。問題行動を映像で見せて考えさせる、という点がよいと思います。

ドライバーは「安全確認しないで、歩道を走ってくる自転車、歩行者が怖い」といい、自転車、歩行者は「ドライバーは自分たちのことを見ているかと思ったが、意外に見ていない」という。こうした意見の食い違いの中から気づき生まれ、「こういうところでは、しっかり止まる、と言うことが一番。しかも簡単にでき、安全や」という結論になります。

生涯学習で交通安全は欠かせないテーマ

住民センターでは、市民の生涯学習を支援するため、料理教室をはじめ、生活に密着した内容の講座を開設しています。

特に、近年高齢者が関係する交通事故が多発していることもあり、交通安全や命の大切さを再認識してもらうため、地元の警察署と連携して2年前から「50歳からの脳トレ講座」を開催しています。参加者の募集と会場は当方で、指導を警察署で分担して行っています。対話中心で進めていますので、定員は12名に絞っていますが、少人数で行うことにより、アットホームな雰囲気の中で教室が運営でき、仲間づくりにも役立っています。

命を守るということは、永遠のテーマですので、今後もこの教室を継続していきたいと考えています。



京田辺市教育委員会
京田辺市立中部
住民センター所長
西川英弘さん

参加したみなさん

人の意見が聞けるのがよい



厚地修行さん

「脳トレ講座」という名前にひかれて参加しました。交通安全教育というと一方通行が多いのに、この講座では、意見を出し合いながら進めます。人の体験が聞けるし、自分の意見も参考にしてもらえます。参加してよかったと思います。

家族の運転も変わりました



馬越美由紀さん

スマートな運転をしたいので受講しました。運転は自分流になりがち。他の方のいろんな意見を聞きながら、自分で気づかなかったことを取り込んだり、応用して使えるのがいいですね。家族全員がドライバーなので講座をよく話題にします。普段は「こうなさい」というと反発する子どもが、「お母さんがいったから」と一時停止標識を意識して運転するようになりました。うれしかったですね。

異動先で「60 歳からの脳トレ講座」を実施

田辺署での「50 歳からの脳トレ講座」の経験を生かし、東山署に移ってから、地域の社会福祉センターと一緒に、「60 歳からの脳トレ講座」(2011 年 3 月～6 月、全 6 回)を行いました。

ここは京都市内で高齢化率の一番高い地域。ドライバーだけでなく、自転車利用者、歩行者の方に参加していただき、それぞれの立場から意見を出しあい、安全を守るための行動を考えていただいています。

回を重ねるごとに、本音の発言が増えてきます。自然にリーダー役が出てきて、話し合いを進めてくれるようになりました。1 回の講座は 2 時間ですが、あっという間に終わります。



京都府東山警察署交通総務係
田中孝子さん
(「50 歳からの脳トレ講座」
の発案者)

26 署の交通安全担当者が指導者研修を受けて 「いきいき運転講座」を展開しました

京都府警察本部交通部交通企画課
交通事故対策室交通安全教育係長
安田佐智子さん

「いきいき運転講座」の教材が完成した直後に、府内 26 警察署の交通安全担当者が、日本自動車工業会の指導者研修を受けました(講師：鈴木春男千葉大学名誉教授等)。参加者は、新たな教育手法、情報をいただき、意識がすごく高まったという反響がありました。

京都府警としても、高齢者交通事故防止の補助教材として、2010 年から「いきいき運転講座」の活用を推奨しています。

今回で紹介している、「50 歳からの脳トレ講座」など連続講座以外にも、老人クラブを対象にした交通安全教育や、プロの高齢タクシードライバー教育等でも、「いきいき運転講座」が活用されています。

高齢者の交通安全教育は、受講者自身がどれだけ意識を変えて、行動を変えるかがキーポイントです。10 回話をしても、意識や行動が変わらない限りは、安全につながりません。その点からも「いきいき運転講座」は有効だと思います。一方的に指導者が話すのではなく、高齢者自身が発言し、参加する中で、考えの軌道修正をしていけます。このことを現場は強く感じています。

ドライバー対策の基本は、教習所等での体験学習が中心ですが、個人が参加できる頻度はせいぜい 1 年 1 回あるかないかです。「いきいき運転講座」は、指導者と必要な道具があれば、開催できます。教育機会を増やす上で、着しやすいうことはとても重要です。

[開催風景]



会場の京田辺市中部住民センター



■準備
・機器をセット。地図を配布



■開催のあいさつ



■交通脳トレ
・「交通脳トレ3ヵ月」を渡し、毎日家でやっていただく
・講座では、やり方を覚えていただくために、1回目と2回目に会場で取り組んでいただくが、3回目以降は、進み具合を確認するだけ



■地域の交通事故状況
・市内で起きた事故を、写真を使い、四輪車側、歩行者側など、事故に関係した人たちの立場に立って解説



■ヒヤリ体験を生かす
・ワークシートに取り組む



・ワークシートへの記入内容を、一人ずつ発表



・ヒヤリ地図の作り方の説明



・個人別ヒヤリ地図づくり
・参加者一人ひとりに、家を中心にした地図を用意



・できたヒヤリ地図を使って、ヒヤリ体験の発表と意見交換



■「今日、覚えてほしいこと」
・参加者が順番に読み上げる



■おわりのあいさつ

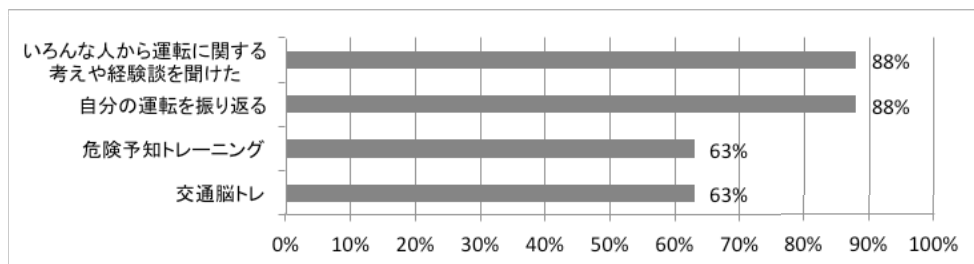
「50歳からの脳トレ講座」の参加者に対するアンケート調査

(第1回目の受講者8人対象に2010年2月実施)

1. 「いきいき運転講座」は役に立ちましたか？

はい 100%

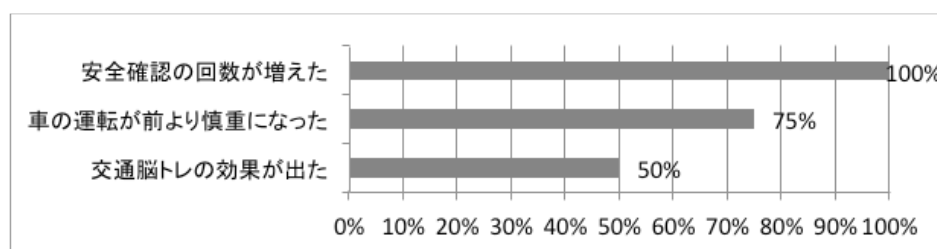
2. 「はい」と答えた方は、どんなところが役に立ちましたか？



3. 「いきいき運転講座」を受けて、車の運転に変化は出ましたか？

はい 100%

4. 「はい」と答えた方は、どんなところが役に立ちましたか？



5. その他、何でも結構です。感想を書いてください。

- ・自分自身おろそかに運転していました。危険予知をしながらスピードを控えるようになりました。
- ・標識が見えるようになりました。すごく良かったです。
- ・初めての講座で内容も充実していて参加してよかった。
- ・他人の事故例は危険予知の話があり、自分も話を聞いて非常に参考になりました。
- ・女性ドライバーからの話が聞いたことが大変参考になりました。
- ・今まで自分は慎重にやっていると自覚していましたが、講座により反省することが多く発見できて良かったです。人にも伝えていきます。もっともっと多くの人に受けるようにしてほしいと思います。
- ・過去に単独事故があるものの、大きな事故にあったことがないことから、経験者からの話が参考になり、今後の運転に生かされます。
- ・映像で運転体験できるシミュレーターができればさらによかったと思います。

倉敷市水島交通安全協会

老人クラブを対象に「いきいき運転講座」

——「交通脳トレ」と「自分の運転を振り返る」レベル1を使って——

● 事例

- ・取材日：2011年9月6日
- ・タイムスケジュール

時間	分	項目
		準備
10:00～10:10	10分	開会あいさつ(警察署)
10:10～10:20	10分	交通脳トレ ・間違いさがし
10:20～10:50	30分	「自分の運転を振り返る」レベル1
10:50～10:55	5分	「今日、覚えてほしいこと」を読み上げる
10:55～11:05	10分	反射材の必要性など地区の重要テーマ
11:05～11:10	5分	おわりのあいさつ

● 実績

項目	内容
実施主体	水島交通安全協会
担当者	虫上陽子さん
展開内容	地域の老人クラブの依頼を受けて高齢者対象に講習会を実施 名称：「いきいき運転講座」 内容：「自分の運転を振り返る」レベル1 時間：1時間10分、参加費無料
回数、参加者数	2011年4月より6回実施、参加者319人
募集方法	・老人クラブの依頼で講習会を開催している。依頼先が募集するため、講習担当者の負担はない
費用(1回あたり)	・カラーコピー代(ただし、交通脳トレ用のカラーコピーは繰り返し使用) ・チラシ、反射材など配布物(交通安全協会の予算でまかなう)
講座受講者の反応	・危機感を持って勉強ができた、退屈しないと好評だった

● インタビュー

指導経験が少なくてもうまく進められる

水島交通安全協会 虫上陽子さん



2011年3月から、「いきいき運転講座」を使って高齢者の交通安全教室を行っています。4月から新人の交通安全指導員とペアを組んで仕事をしています。「いきいき運転講座」は、進め方が書かれた「台本」を読めば、指導経験がない人でもうまく進められるので、新人との共同作業がうまくいっています。

今年に入って、住宅地の四つ角や、裏道から大通りに出る地点で、高齢者が乗る自転車と四輪車が出会頭に衝突する事故が続けて起きました。

ビデオを使った「自分の運転を振り返る」は信号機のない交差点での危険をテーマにしているので、安全な通過方法を考える上でとても役に立っています。

【講座を行う上でのポイント】

● 講習時間にあわせてやり方を工夫

交通安全講習は、老人クラブ等の依頼を受けて行っています。「いきいき運転講座」は、話し合いの時間が必要なので、講習時間を1時間取れるときに使っています。ただし、地元警察署の方のあいさつや、地区の重要テーマの説明の時間を差し引くと、「いきいき運転講座」に使えるのは、実質30～40分程度。時間内にできるやり方を工夫して行っています。

● 「間違いさがし」で参加者の気持ちをぐいとつかむ

交通脳トレには10分取り、やりごたえのある「間違いさがし」を行っています。「脳を元気にしておきましょう」といって始めると、みなさん集中して取り組んでくださいます。

高齢者の交通安全教室では、「参加者の気持ちに乗ってくるまでに時間がかかる」という方もいますが、最初に交通脳トレを行うと、参加者みなさんの気持ちをこちらにぐいと引き付けることができます。

● グループ分けをせず、質疑応答形式で進める

交通安全トレーニングは「自分の運転を振り返る」のレベル1の2つの問題を30分かけてやります。30分では小グループに分けてディスカッションするのが難しいので、グループ分けをせずに質疑応答形式で進めます。四輪車、歩行者・自転車それぞれの立場で、問題を考え、意見が出るので、互いの立場を理解するのによいと思います。

● 本音が出て、話せるようにする

講座の進め方ですが、

1. 「みなさんに見てもらいたいものがあります。思ったことを話してください」、といて問題編のビデオを見せよう。
2. そのあと、挙手または指名で、ビデオの感想を言ってもらおう。
3. さらに解説編のビデオを見せよう、「なぜ、一時停止で車は止まらないのか」「車が止まらないとどういう危険があるか」について意見を出せよう。

質問を投げかけると、みなさん意見を言ってくれます。どんな意見が出てても否定しないこと。参加者の経験から出てきたもので、出てきた意見はみんな正しいのです。本音の意見を出し合い、聞くことで、気づき生まれます。

● 「自分の運転を振り返る」はリアルさがあるよ

老人クラブからの交通安全講習の依頼は、大体年1回というのが多いですね。次は何をやるのか、と期待されるのでプレッシャーもあります。

先日、「いきいき運転講座」の「自分の運転を振り返る」レベル1を使って講習会を行いました。手厳しい意見を言われる老人クラブの会長が、「今回は、リアルな内容でとても勉強になった」と声をかけてくれました。「絵や寸劇もいいが、危険といわれても、実感がわかない。その点今回の講座は、実際の交通場面をビデオで見せ、危機感があった」とおっしゃるのです。現実をテーマにする方が、問題点を発見しやすいのだなと改めて思いました。

[講習風景]



■交通脳トレ



■自分の運転を振り返る 問題編



■自分の運転を振り返る 解答編

倉敷市児島交通安全協会

老人クラブの要望に応じて「春蘭^{じじ ばば}交通大学」(全12回)を開催 ——「交通脳トレ」と「いきいき運転講座」を使って——

● 事例

- ・取材日：2011年9月6日
- ・タイムスケジュール

時間	分	項目
		準備
9:30～10:00	30分	血圧・健康チェック
10:00～10:10	10分	ストレッチ体操
10:10～10:15	5分	講座の流れの説明
10:15～10:25	10分	交通脳トレ
10:25～11:40	75分	交通安全トレーニング(休憩10分)
11:40～11:50	10分	今日、覚えてほしいこと
11:50～11:55	5分	体操
11:55～12:00	5分	おわりのあいさつ

● 実績

項目	内容
実施主体	倉敷市児島交通安全協会
担当者	松井和子さん 大賀和代さん
展開内容	2010年に、児島地区の高齢者モデル地区事業として、老人クラブ会長の要請を受けて「いきいき運転講座」を活用した交通大学を実施。 名称：「春蘭(じじばば)交通大学」 内容：「いきいき運転講座」4種類12項目の交通安全トレーニングと「交通脳トレ3ヵ月」を活用 時間：2時間半、参加費無料 会場：井戸公会堂
回数、参加者数	2010年4月より2011年3月まで12回実施 27人が登録し(半数が免許取得者)、参加者数は約320人。平均年齢は70歳代後半、最高齢は90歳を超える
募集方法	・老人クラブが募集
費用(1回当あたり)	・受講者用教材「ワークシート」「今日、覚えてほしいこと」のコピー代、反射材などの交通安全ツール(交通安全協会の予算でまかなう)
講座受講者の反応	・いろいろ話せて楽しい、もっと続けてほしいと好評だった

● インタビュー

活発な話し合いで、よい仲間づくりに

児島交通安全協会

松井和子さん（右）、大賀和代さん（左）



2010年度に、児島地区の高齢者モデル地区（重点施策地域）の事業として「いきいき運転講座」を使って「春蘭（じじばば）交通大学」*（全12回）を行いました。

交通安全教育に熱心な老人クラブの会長さんから、「高齢者だけが住む家が増えている。高齢者が自立して、安全に暮らすために、交通安全は大切だ。みんなが集まる勉強会をすれば、高齢者を外に引っぱり出して、いい仲間づくりができるし、引きこもりを防げる」という申し出があったのがきっかけです。

そんな時に会ったのが「いきいき運転講座」でした。交通大学に必要な1年分の内容があるし、交通脳トレも魅力。講座を通して、いい仲間づくりをしよう、という主旨にも共感できました。

教材に関心を持った地域の交通安全指導員約60名と一緒に、日本自動車工業会の「いきいき運転講座指導者研修」を受け、4月から交通大学をスタートさせました。

交通大学卒業式のあと、「春蘭交通大学の2年生になりたいよ」という声も上がるなど、大変喜ばれました。

*「春蘭交通大学」の命名は老人クラブの会長さんです。春蘭は、近くの山に自生している可憐でかわいらしい花です。その花のことをこちらでは「じじばば」といいます（方言）。花を塩漬けにし、お茶の中に入れてよく飲むそうです。花好きな年配の方なら誰でも知っていることから、「春蘭（じじばば）交通大学」と名付けたそうです。

【講座を行う上でのポイント】

● 交通指導員が進行役や班長になって、話し合いを進める

交通大学には27人が登録しました。半数が運転免許を持たない方です。

毎回、参加者数に合わせて、2～3のグループに分け、「いきいき運転講座」の指導者用資料に沿って、グループディスカッションを中心に進めました。

進行役と班長は、交通安全協会と市役所の交通安全指導員4人が担当しました。

12回の講座のうち10回で「いきいき運転講座」の教材を活用し、12項目の交通安全トレーニングすべてを行いました。健康のために、講座の前後に、血圧測定とストレッチ体操を行いました。

「いきいき運転講座」指導者研修会で、講座の疑似体験をしてイメージはつかめていたので、進め方には困りませんでした。

● 班分けは、毎回趣向を変えて行う

班のメンバーは固定せず、毎回、血液型、誕生日、男性・女性別、干支、免許の有無などテーマを変えて、班分けをしました。ちょっとしたアイデアで、ムードが盛り上がりました。

● 「交通脳トレ」は他人と競争するものでないことを強調する

3回目の講座の時、3人の女性が「交通脳トレをやりたくない」といいました。「時間がかかるから恥ずかしい」というのが理由です。

交通脳トレは、問題を終わるまでの時間を計りますが、3ヵ月間で、どれだけ時間が短くなるか、自分の成長を見るためです。ただ、やっている本人は、所要時間をつい人と比較してしまうのですね。

「交通脳トレ」は人と競うものでないことを改めて説明し、所要時間を自分で記録し、3ヵ月後を楽しみにしましょうとお話しました。

[講座を行う上でのポイント]

● 何度も顔を合わせることで話し合いが活発になる

運転免許のない方は半数ほどおられたので、その方々には歩行者、自転車利用者の立場で話してもらいました。何度も顔を合わせるうちに、話し合いが活発になりました。1回だけの講習では言いにくいことが、言えるようになり、質問もたくさん出るようになります。

「車に乗ったことがないから、車の目線で勉強をしたい」「町の中心部にあるデパートや病院まで安全に歩いていける道の選び方と交通量の多い道路の通行方法を、実際に外に出て歩きながら教えてほしい」という熱心な質問には驚かされました。

● 歩行者や自転車利用者も参加できるヒヤリ地図づくりが好評

ヒヤリ地図づくりは、運転免許のない人も積極的に参加できるのがよいですね。ヒヤリ個所は、ドライバー、歩行者、自転車では違いが出たので、相手の行動を理解するうえで役立ったと思います。

● 一番盛り上がったのは、ミニカーを使った危険予知トレーニング

交通場面の写真からの危険の読み取りは、車を運転する方はすぐ理解できるのですが、運転経験のない歩行者は映像だけではうまく表現することができなくて、意見が少ないようでした。

でも、ミニカーを使った危険予知トレーニングは、歩行者の方が積極的に参加し、交通大学の中で一番盛り上がりました。写真のシーンを、地図上にミニカーを使って立体的に再現するので、交通状況を把握しやすくなるからだと思います。車を動かしながら、「なぜこの車は出てくるのか」「こうすれば危険は防げたはず」など意見がたくさん出て、時間が超過しました。

● 「今日、覚えてほしいこと」は文章を読むのが好きな人に読んでもらう

まとめにあたる「今日、覚えてほしいこと」は、参加者に順番に読んでもらうと教材に書いてあります。ただ、読むのがいやという人もいます。

参加者の中に、毎朝 3 時に起きて新聞を読むという方におられたので、その方に、まとめの前半を、後半を進行役が読むようにしました。得意なことをみんなの前でできるので、とても喜んで読んでいただきました。

● 「いきいき運転講座」は仲間づくり、引きこもり防止に効果的

回を重ねるごとに、発言がスムーズになり、質問も増えました。自分の意見を言えるので、いきいきされたと思います。

「講座で仲間に会えるという楽しみを作れば、高齢者の引きこもり防止につながる」という、老人クラブ会長の願いもかなえられたと思います。

● 継続的に参加してもらうために

- ・ 2 時間の講座なので、必ず休憩を設け、お茶とお菓子でくつろいでいただく。
- ・ 毎回講座の終わりに、次回のお誘いをする。
- ・ 皆勤の方にはパーフェクト賞として傘をプレゼントすることを強調（閉講式に 3 人に手渡した）。
- ・ 参加意欲を高めるために、講座の 7 回目にお楽しみ会を開催。この日は交通安全のトレーニングはなしにし、交通安全クイズやカルタなどで、仲間のきずな作りを行った。

● 参加者に喜んでいただくために

- ・ 名刺サイズの個人別ネームカードを作成。汚れないようにラミネート加工をし、講座当日はカードをプラスチックケースに入れて首から下げてもらった。
カードの裏に出席欄を作り、参加することにシールを貼った。カードもシールもパソコンで作成。
- ・ 交通脳トレの解答用紙は回収して、次回までに交通安全指導員が採点をして、参加者に確認してもらった。
100 点満点の人には花丸をつける、100 点を取れなかった人には残念マークと励ましのコメントを入れるなど工夫をしたので、大変喜ばれた。
- ・ 一番喜ばれたのは、個人別のファイル。1 年間の成長の過程を見もらうために、メモや回答が書き込まれた「ワークシート」や「交通脳トレ」の用紙を毎回回収してファイルして保管しておき、閉校式にプレゼントとして手渡した。

[開催風景]



■ 血圧健康チェック

- ・老人クラブのメンバーで、元看護師の方が毎回測定してくれる



■ ストレッチ体操



■ 今日の流れの説明



■ 交通脳トレ

- ・班長が時間を読みあげる
- ・問題が終わった人は、かかった時間をメモする



■ 危険予知トレーニング

- ・ワークシートに記入後、一人ずつ発表してもらう



- ・交通場面の写真を、ミニカーと地図を使って再現し、見えている危険、見えていない危険を話し合う



- ・班で話し合った内容を、班長が発表



■ 「今日、覚えてほしいこと」

- ・読み上げは、文章を読むのが好きな参加者と進行役が分担する



■ 交通安全体操

- ・地元警察署の警官が病気の妻を励ますために作った歌詞に、プロの作曲家が音をつけ、警官の息子さんが歌っているCDを使って行う。体操の内容は松井さんたちが考えた。



受講者のみなさん（開校式で）

三重県鈴鹿市防災安全課

高齢者の交通安全教室で「いきいき運転講座」を活用 ——「交通脳トレ」と「自分の運転を振り返る」レベル1を使って——

● 事例

- ・取材日：2011年10月22日
- ・タイムスケジュール

時間	分	項目
		準備
10:00～10:05	5分	開会あいさつ、講習内容説明
10:05～10:15	10分	警察官による地域の交通事故状況の解説
10:15～10:20	5分	体操
10:20～10:30	10分	「交通脳トレ」 ・間違いさがし（ポスターサイズの画像を使って） ・文字ひろい ・計算・音読
10:30～10:40	10分	腹話術、寸劇、言葉遊びなど
10:40～10:55	15分	「危険予知トレーニング」レベル1
10:55～11:00	5分	歌を歌ったり、重要施策のアピール（反射材の重要性など） おわりのあいさつ

● 実績

項目	内容
実施主体	三重県鈴鹿市防災安全課
担当者	近藤麻里さん、浅野尚子さん
展開内容	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼先の要望に合わせ、「いきいき運転講座」をアレンジしながら交通安全講習に活用している ・対象は、高齢者ドライバーが主だが、小学生の交通安全教室の導入などに「交通脳トレ」を使っている 時間：1時間、参加費無料
回数、参加者数	・2009年4月より20回（約800人）の高齢者交通安全教室で活用
募集方法	・老人クラブ、自治会などの講習会開催依頼を防災安全課が受け、7人の交通安全指導員が分担して実施。依頼先が参加者を募集するので、講習担当者の負担がない
費用（1回あたり）	・受講者用教材「間違いさがし」「計算・音読問題」「危険予知トレーニング」の3枚のモノクロコピー代（防災安全課の予算でまかなう）
講座受講者の反応	・自分の意見が出せるので良い、楽しいなど好評

● インタビュー

楽しく学んで、意識を変えていただく

三重県鈴鹿市防災安全課 近藤麻里さん（左）、浅野尚子さん（右）

交通安全指導者研修で「いきいき運転講座」を体験したとき、参加者全員が話し合いに参加する今までになかったやり方で、すごくいい教材だと思い、すぐに使いたいと思いました。

高齢者の講習会で「交通脳トレ」と「危険予知トレーニング」レベル1を組み合わせて行っています。「危険予知トレーニング」では、危険箇所はどこにあるかを自分で考えて意見をいうので、真剣になりますし、他の人の話を熱心に聞きます。

私たちは、楽しく学んで、意識を変えていただくことを大事にしています。私たち流のアレンジを加えて「いきいき運転講座」を活用しています。



[講座を行う上でのポイント]

● 机があることが開催の条件

「いきいき運転講座」は、机と鉛筆があり、車の運転をされる方が半数以上おられる、という条件があるときに使っています。「交通脳トレ」も「危険予知トレーニング」も、記入する作業があるので、机は不可欠です。

● 参加者全員を1グループとして進める

交通安全教室の開催時間は、30分から1時間。私たちが使えるのは、20分から45分です。グループ分けして話し合う、というやり方だと時間が足りないので、全員を1グループと考え、対話方式で進めます。

● 「交通脳トレ」の間違い探しは、ポスターサイズに拡大して、全員で取り組む

「交通脳トレ」は、参加者の「食いつき率」が高いので、講座の前に集中力を高め、気持ちを盛り上げる上で、とてもいいですね。小学生の交通安全教室の導入にも使っています。

「脳のウォーミングアップをしましょう」といって、まず「交通脳トレ」の間違い探しから行います。ポスターサイズに拡大してカラーコピーした間違い探しの問題を貼り出して、どこに間違いがあるか、手を挙げて答えてもらい、解答が出そろうまで全員で取り組んでもらいます。

「別の老人会で間違い探しをやったときは2分で終わりましたよ。みなさんはどうでしょう」と話しかけると、一所懸命取り組まれます。

● 「交通脳トレで、15歳、脳は若返りましたよ」といって次のトレーニングにつなげる

「計算・音読」と「文字ひろい」の問題は、モノクロコピーし、個人で取り組んでもらいます。高齢者の方々は競争心が強いので、とくに計算問題は、負けじと取り組まれます。

問題が終わったら「みなさんの脳は、15歳くらい若返ったと思います。鏡を見てください」と呼びかけ、交通安全のトレーニングに進みます。この呼びかけは受けますね。

● ポスターサイズに拡大した交通場面の写真を見ながら、全員で答え合わせをする

「危険予知トレーニング」では、まず、一人ずつに問題のモノクロコピーを配り、「隣の人と話してもかまわないので、『見える危険』『見えない危険』に印をつけてください」と説明します。

記入が終わった頃を見計らって、ポスターサイズにカラーコピーした交通場面の写真を貼り出し、参加者のみなさんに手を挙げてもらい、気づいた危険を、1人1カ所ずつ発表してもらいます。参加者が同じ場面を見ながら、解答を確認していくことで、危険情報を共有できます。

[講座を行う上でのポイント]

教材の解答にないような指摘が出たときは、「こういうところにも危険があることによく気づきましたね」と、ほめます。

● 身近な話題を交えて、トレーニングの応用の仕方を説明

高齢者のみなさんは、危険個所を見つけることはできても、「自分はきちんと行動しているから、問題はない」と思いがちです。みなさんが指摘した危険個所を、自分の問題として受け止めてもらうために、身近な話題を交えて、このトレーニングの意味を伝えます。

「みなさんは、病院に行こうと思ったとき、病院に何時までに行こう、帰りには〇〇さんの家にちょっと寄ってみよう、など行き先のことだけを考えていませんか？ 途中の道で、危険があるかもしれないと予測するのを忘れていませんか？ 今日「危険予知トレーニング」で行ったように、危険がどこかに潜んでいる、と考えながら、歩いたり、運転することがとても大事です」

● 楽しい中でも、意識してほしいことはきちっと話す

「次の交通安全講習会にも参加したい」、という気持ちを持ってもらえるように、楽しく興味を持ってもらえるやり方を心がけています。

私たちが目指しているのは、安全な行動への意識づけです。普段、考えずに生活していたことを、講習会で意識してもらい、それを家に帰って話題にし、広げていただきたいと考えています。

「今日、覚えてほしいこと」の資料を参考にして、楽しい中でも、意識してもらいたいことは、「こうしてくださいね」と、ちゃんとお話しして講座を締めくくります。

神奈川県平塚市くらし安全課

老人クラブ対象の「いきいき生活応援講座」自転車編

—— 自転車実技教室と「いきいき運転講座」を組み合わせる ——

● 事例

- ・取材日：2011年9月16日（9時30分から10時15分）
- ・会場：平塚市真土大塚公園
- ・主催：真土連合真寿会（老人クラブ）
- ・参加者：約50名
- ・タイムスケジュール

時間	分	項目
		準備
9:30～9:35	5分	開会あいさつ、講習内容説明
9:35～9:55	20分	自転車実技教室
9:55～10:10	15分	「いきいき運転・いきいき生活」レベル1、「危険予知トレーニング」レベル2を使った講義
10:10～10:12	2分	おわりのあいさつ

● 実績

項目	内容
実施主体	平塚市市民部くらし安全課
担当者	伊藤美幸さん、後藤陽子さん
展開内容	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼先の要望に合わせ、「いきいき運転講座」をアレンジしながら交通安全講習に活用している ・対象は、高齢ドライバーに限らず、高齢歩行者や自転車利用者、さらに小、中学生、一般の方々など幅広い 時間：42分、参加費無料
回数、参加者数	2010年3月より20回（1,336人）の交通安全教室で活用 高齢者4回（190人）、小学5・6年生6回（347人）、中学1年生3回（428人）、一般7回（371人）
募集方法	・老人クラブ、学校、自治会などの依頼を受けて講座を開催している。 依頼先が参加者を募集するので、講習担当者の負担がない
費用（1回あたり）	・受講者用教材のコピー代（くらし安全課の予算でまかなう）
講座受講者の反応	・参加者が意見を発表できてよい、役に立つなど好評

● インタビュー

いきいきと語りあい、学ぶことができる教材

平塚市市民部くらし安全課 伊藤美幸さん（左）、後藤陽子さん（右）

2010年1月に神奈川県が行った交通安全指導者研修で「いきいき運転講座」を知りました。話し合いを中心に、いきいきと語りあい、学ぶことができる教材として活用しています。

高齢ドライバーだけでなく、高齢歩行者、自転車利用者、さらに小、中学生、一般の方（自治会、職業訓練校など）など、幅広く使える内容です。

これまでに20回の講習会に「いきいき運転講座」を取り入れ、1300人を超える方々にご参加いただきました。受講者から記憶に残るものでよかったと好評です。



[講座を行う上でのポイント]

● 時間内にできるようにやり方を工夫

交通安全教室は、基本的に依頼を受け、相手の要望を伺って行っています。

開催時間は30分から1時間。時間の制約の中で「いきいき運転講座」を行うために、参加者全員に質問を投げかけ、答えるという形で進めています。

● 高齢歩行者、自転車利用者のために

「いきいき生活・いきいき運転」、「危険予知トレーニング」を活用

今回は、老人クラブから「自転車に乗る人には実技を、自転車に乗らない人は見学をしてもらい、そのあと講義を」という要望をいただきました。講義では、「いきいき運転講座」から2つの内容を選び、次のように進めました。

1. 「いきいき生活・いきいき運転」レベル1

「活動的に暮らす方ほど、長生き」「友達や仲間がたくさんいる人ほど、安全意識が高い」と言われていますが、どう思いますか？と質問を投げかけ、健康のためにも、交通安全にも、いきいきと活動的な暮らしが大切ということを伝えました。

2. 「危険予知トレーニング」レベル2

自転車が関係する場面を取り上げ、「見えている危険」「見えていない危険」はどこにあるのか、手を挙げて答えてもらい、危険予知の大切さをアピールしました。

今日は、猛暑の上、戸外の講習だったので、疲れが出ないように、30分の予定の講義を15分に短縮しましたが、充実した内容になったと思います。

● 「自分の運転を振り返る」は、小、中学生対象の講習会でも使える

依頼を受ける交通安全講習は、今回のように、自転車、歩行者を対象にしたものがほとんどです。「いきいき運転講座」は、高齢ドライバー用に作られていますが、これにしばられることなく、対象も年齢層も広げて活用することができます。

私たちがよく使うのは、「自分の運転を振り返る」レベル1の「信号機のない交差点での歩き方・自転車の乗り方の自己評価」です。

現実の交通場面を撮影したビデオを使うので、説得力があり、「なるほど、こういう行動が危ないのだ」と、気づいてもらうことができます。

「なぜ、自転車や歩行者は、信号機のない交差点を通るとき、安全確認をしないのか？」「安全確認をしないとどういう危険があるか？」など質問を投げかけ、答えを言ってもらいます。

[講座を行う上でのポイント]

小学5・6年、中学1年の交通安全教室でも「自分の運転を振り返る」を使いましたが、話し合いの中で、安全確認の大切さを実感してもらえました。

● 意見を言ったあとは、指導者の話をよく聞くようになる

「高齢者は交通安全について話し合いができるのか」と心配される方がいますが、意外にたくさんの意見が出てきます。

私たちが驚いたのは、高齢者のみなさんに質問を投げかけ、いろいろ意見をいってもらった後は、高齢者のみなさんが私たちの方をしっかりと見て、私たちの話を聞いてくれるようになることです。

時間の制約があって小グループでの話し合いはできませんが、参加者全員の対話形式の中で、高齢者に意見を言ってもらうことが大変大事なのだということに気づかされました。

[感想とコメント]

参加者の意見を引き出しながら進める というやり方がよい

老人クラブとして、交通安全の催しは年2回行っています。平塚市は道が平坦なため、高齢者で自転車に乗る人が多く、事故も多いのです。今回は、自転車をテーマに、実技教室と交通安全講話をお願いしました。

私たちが元気に暮らすために交通安全は大切です。年齢とともに、自分は大丈夫、高齢者はみんなが守ってくれる、という甘えの意識が高まります。甘えの意識を変えるために「危険予知トレーニング」は役に立ちます。

今日とてもいいと思ったのは、危険予知トレーニングの進め方です。高齢者は、自分で表現したい、認めてもらいたいと思っています。交通安全教室でも、そういう気持ちを吸い上げないとダメなんです。

危険予知トレーニングでは、指導員の方が、「どこが危ないか」「それはなぜ？」と参加者の意見を引き出し、耳を傾けてくれました。だから、指導員の方の話もしっかり聞くことができたと思います。いきなり指導員の方が一方的に話を始めたら、おそらくどんなよいことを言われても、聞かなかったと思います。



真土連合会真寿会会長
森下 斉さん

[開催風景]



■開会のあいさつ

- ・高齢者の事故状況について
- ・自転車利用者は実技講習を、自転車に乗らない人は実技講習を見学
- ・実技講習の後、講話を行う



■自転車実技教室

- ・公園の広場にコースを作り、一人ずつ走っていただく。ブレーキのかけ方、一時停止標識のある交差点での安全確認の仕方、駐車車両の側方通過の仕方をチェック
- ・アドバイスには老人クラブのメンバーも参加した



■危険予知トレーニング

- ・「危険予知トレーニング」レベル2の問題を、質疑応答形式で進める



■いきいき運転・いきいき生活

- ・「活動的に暮らす人ほど、長生き」「友達や仲間がたくさんいる人ほど、安全意識が高い」ことを伝え、交通安全にいきいき生活が大切なことをアピール



■おわりのあいさつ

J A F 福岡支部

シルバー・セーフティ・ドライビングスクールで 「いきいき運転講座」を活用

——「交通脳トレ」、「自分の運転を振り返る」に実技講習を組み合わせる——

● 事例

- ・取材日：2011年10月2日（13時45分から16時10分）
- ・会場：姪浜ドライビングスクール（福岡市）
- ・主催：日本トラック協会福岡支部、後援：福岡県警察本部、糸島警察署、JAF、姪浜ドライビングスクール
- ・参加者：20名
- ・頻度：福岡県内で毎年8回開催
- ・タイムスケジュール

時間	分	項目
		参加者をグループ分け
13:45 ~ 13:55	10分	開会あいさつ
13:55 ~ 14:05	10分	講習内容説明、高齢ドライバーの交通行動の特徴
14:05 ~ 14:25	20分	「交通脳トレ」 ・文字ひろい ・計算・音読 ・間違いさがし
14:25 ~ 14:45	20分	「自分の運転を振り返る」レベル1 問題1 「今日、覚えてほしいこと」の読み上げ
14:45 ~ 14:50	5分	休憩
14:50 ~ 16:00	70分	実技講習 ・模擬体験：車の死角、信号機のない交差点で左から来る車の見え方 ・実技体験：信号機のない交差点の安全な通過方法 ・体験：エアバッグ展開デモ、発煙筒のつけ方
16:00 ~ 16:10	10分	今日のまとめ、おわりのあいさつ

● 実績

項目	内容
実施主体	JAF 福岡支部
担当者	前川憲司さん他 2 人
展開内容	<ul style="list-style-type: none"> ①トラック協会福岡支部依頼の「シルバー・セーフティ・ドライビングスクール」、②「JAF Super シニアスクール」で、「交通脳トレ」と「自分の運転を振り返る」を活用している 時間：①2 時間 25 分、参加費無料
回数、参加者数	<ul style="list-style-type: none"> ①福岡県内で年 8 回開催、参加者 152 人 ※実車体験があるので 1 回の参加者を 20 名に限定して行っている
募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ①所轄警察署を通して、老人クラブ、シルバー人材センターの団体に参加推進
費用（1 回当たり）	<ul style="list-style-type: none"> 受講者用教材「ワークシート」「今日、覚えてほしいこと」のカラーコピーは、JAF が担当 「交通脳トレ」は、「交通脳トレ 3 カ月お試し版」を日本自動車工業会より無償提供
講座受講者の反応	<ul style="list-style-type: none"> 話をしながら進めるので楽しいし、気づきがある

● インタビュー

対話があるから、おもしろくて、心に残る

JAF 福岡支部事業課交通環境係主事 前川憲司さん

シルバー・セーフティ・ドライビングスクールは、交通事故防止のために地域の取り組みとして8年前から行っています。

昨年度までは実技だけでしたが、今年度から座学として「いきいき運転講座」を加えています。

「いきいき運転講座」の良さは、受講者と直接対話ができることです。参加者のみなさんには、ご自分で感じたことや思いを直接発表していただけるようにしています。話をすることで、問題を掘り下げられ、納得して理解してご自分の心に残るのだと思います。また、参加されたみなさんから意見やアドバイスをいただくことで私たち自身の勉強にもなります。

何を聞いていたかではなくて、何をイメージしていただいたかを確認しています。せっかくの講習を持ち帰って活かしてほしいですから。



[講座を行う上でのポイント]

● 家庭や地域で、みんなに話したくなるような講座にする

私が目指しているのは、スクールで出た話題を、家庭や地域に戻って、みんなに話したくなるような、楽しくて、インパクトのある、前向きな感想をもってもらえる内容にすることです。

スクールでは、「交通脳トレ」と「自分の運転を振り返る」レベル1を活用しています。これまでの交通安全教材にはなかった新しい内容と手法が使われていて、みなさんが話題にしたくなるような内容になっていると思います。

● 受講者を眠らせない「いきいき運転講座」

なぜ、「シルバー・セーフティ・ドライビングスクール」に「いきいき運転講座」を加えることにしたのか。JAFが全国展開している「JAF Super シニアドライバースクール」がきっかけです。

「JAF Super シニアドライバースクール」は、年齢 50 歳以上の熟年ドライバーのみなさんに、車の先進安全自動車を体験していただいて、安全運転をさらに考えていただくことを目的にしています。

しかし、悩みの一つが、座学で受講者の方々が退屈して飽きてしまうことでした。

一方的に話す今までの講座のやり方は受講者に興味を持ってもらえない。受講者との対話が必要だということから、JAF ではこれまでの座学に変えて、昨年から「いきいき運転講座」を採用することを決めました。これにより受講者の反応が一変し、本当の「いきいき講座」になりました。

受講者を飽きさせない座学を取り入れれば、もっと実技講習が充実する。トラック協会の「シルバー・セーフティ・ドライビングスクール」でも、いきいき運転講座を取り入れようと考えました。

● 座学は 40 分を目安に

受講者の好奇心を持続させられる時間は 40～50 分くらいだと思います。

今回は、地域の交通事故の特徴の説明 10 分、「交通脳トレ」20 分、「自分の運転を振り返る」20 分くらいを目安に行いました。「いきいき運転講座」はきちんとしたカリキュラムが組み込まれているので、とても使いやすいですね。

● 交通脳トレはよい雰囲気づくりに役立つ

スクールでは見ず知らずの人が集まるので、最初は緊張でピリピリしています。交通脳トレは、参加者のみなさんの気持ちをほぐすのに役立ちます。

交通脳トレを始める前に、「認知→判断→操作」の運転行動の話をし、事故防止には、認知、判断という頭の働きが重要で、交通脳トレをやっていると老化しませんよと説明します。すると、自分の問題に置き換えて、参加者のみなさんが意欲的になります。

【講座を行う上でのポイント】

「文字ひろい」と「音読・計算問題」は、2人1組になって、お互いに問題を終えるまでの時間を計りあっていただきます。自然と話をするようになり、よい雰囲気になっていきます。

「間違い探し」は、問題を終えたら、プロジェクターを使ってスクリーン問題を映し出し、みなさんに挙手してもらい、間違い箇所パソコンのマーカー機能を使って印をつけていきます。結構盛り上がります。

●「自分の運転を振り返る」は、参加者と進行役の対話で進める

「自分の運転を振り返る」は、今日は、時間内に収めるために、グループ分けはせず、会場のみなさん全員と進行役の私とでやり取りする形で進めました。

やり方もアレンジしています。問題画面の写真をプロジェクターで映し、100点満点で運転の自己採点をした後、安全な通過方法を話し合います。そのあと、ビデオの問題編を見ていただきます。感想を何人かに聞いた後、ビデオの解説編を見て、車、自転車、歩行者の危険な行動を確認します。「なぜ、ドライバーは停止線で止まらないか」「止まらなるとどんな危険があるか」を発表してもらいます。

時間が取れるときには、4、5人の小グループに分けて、「いきいき運転講座」の台本に従って行っています。小グループで行くと、発言の機会が増え、時間管理もラクです。

●受講者のみなさんとのキャッチボールを楽しむ

「いきいき運転講座」の一番の良さは、受講者のみなさんと私たちで会話のキャッチボールができることです。こんな講座は今までありませんでした。

なぜ、キャッチボールがよいのか。高齢者のみなさんは話したがっている。「この問題についてはどうですか?」「どうすればいいですか?」とこちらから尋ねていくと、「こうしたらいい」と本音で、心を開いていただけるようになります。参加者は楽しみながらお互いの意見を出し合い意欲的になります。

●話をすることは考えを深めること

一方的な講座は、高齢者のみなさんとの壁を作ります。いくら、正しいこと、よいことを伝えても、「わかっています」「普段からやっています」といわれ、それ以上話が進展しません。

今日のようにビデオを使うことで、全員がイメージを共有できるのがいいですね。問題行動を見せて、話し合うことによって違う見方にも素直に気づくことができます。

やはり身近な参加者の意見なので抵抗なく受け入れやすい。この雰囲気が大切だと思います。

高齢ドライバーの方で、信号機のない交差点では、他の車や歩道の自転車や歩行者に止まることを期待していた方がいました。でも、ビデオを見て、「お互いが注意しないとだめですね」と意見が変わってくるのです。

話をすることは、考えを深められるということなんですね。

●おもしろいからやってみませんかと指導者に声をかける

交通安全教室というとかく「固い」「おもしろくない」というイメージがあり、何とかそれを打破したい、おもしろい教材を見つけたい、新しいノウハウを知りたいと思っている地域のリーダーが多いと思います。一方的に話して終わる講座をするから盛り上がらないのです。

私はよく、小グループに分かれて話し合って進める「いきいき運転講座」のことを話題にして、「おもしろいからやってみませんか」と紹介しています。

今日も、地域のリーダーがたくさん来られています。体験を共有してもらうことで、「おもしろい講座ができる」ということを知ってもらえたのではないかと思います。

他人の行動を見て、自分の問題点に気づかせる ユニークな内容

私どもは公共道路を使わせていただき仕事をしています。事故防止でみなさまのお役に立ちたいと願い、社会貢献活動の一つとして、平成16年にシルバー・セーフティ・ドライビングスクールをスタートさせました。福岡県はシルバー人口が多く、県警察本部、JAF、自動車教習所などのみなさんの協力を得て、毎年県内8か所で開催しています。

実技だけだったスクールに、今年度から「いきいき運転講座」が加わり、さらに充実した内容になりました。

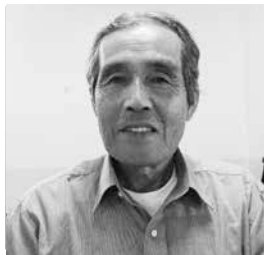
「自分の運転を振り返る」のような、ビデオを使い、話し合いながら進める講座は初めてでした。15台の車すべてが一時停止標識で止まりませんでした。ドライバーは止まることを意識していないのだと思います。止まって安全確認することの重要性に気づいてもらうために、よい教材だと思いました。



社団法人
福岡県トラック協会
事業局長
高柳賢一さん

参加したみなさん

ビデオを見て、無意識にしている 危険な行動がわかりました



川添淳司さん

一時停止標識を意識していないドライバーは多いと思います。停止線で止まらないと事故になることを気づかせるために、免許更新時こういう教材を使うといいと思いました。



藤波正陽さん

1台も停止線で止まらなかったのが驚きました。映像を通して、改めて一時停止標識を守らないことが、いかに危険かがわかりました。

対話しながら問題点を気づかせる これまでにない講座

福岡県では、高齢者の事故が多くなっています。地域の関係団体が協力し、それぞれの得意分野を生かして、こうしたスクールを展開することが大変素晴らしいと思います。実際の交通場面で四輪の動きをビデオで観察する「自分の運転を振り返る」は、対話しながら、自分の運転の問題点を気づかせるというこれまでにないやり方で、大変興味を持ちました。



糸島警察署交通課長
永江弘志さん

[開催風景]



■開会のあいさつ
地元警察署



■自己紹介
・座席の隣同士で自己紹介を行う。
張りつめた会場の空気が和やかに



■交通脳トレ
・2人1組になり、1人が問題を解くのにかった時間を計る



■高齢ドライバーの交通行動の特徴
・場がなごみ意見が出しやすい雰囲気
ができれば本題に入る



■自分の運転を振り返る
・交通場面の解説



・運転の自己評価 (100点満点で)



・ビデオの問題編を見る
—15台の車が、一時停止標識のある
交差点を通過する様子を観察する
—何台の車が停止線で止まらなかつたかを数える



・ビデオの解説編を見る
一車、歩行者、自転車の危険な動きを振り返る



■実技トレーニング
・ドライバーの視野と死角の体験



・信号機のない見通しの悪い交差点で、相互の車の見え方を実車を使って確認
・机上論で出た意見を基に実車を使って検証し改善する



・信号機のない見通しの悪い交差点での、安全な通過方法
・みなさんで決めた方法で実車体験を行い、間違いはないか確認していただく
※相手の立場でどう見えるかをお互いに見て確認



・エアバッグの展開デモ、発煙筒の点火方法

マイマイスクール交通安全センター

地域の交通安全指導者養成のための「脳トレ・リーダー講座」

——「いきいき運転講座」を使った5回連続講座——

● 事例

- ・取材日：2011年10月6日 10時から12時
- ・会場：福岡県中央警察署
- ・主催：福岡県中央警察署、マイマイスクール交通安全センター
- ・参加者：20名
- ・頻度：連続講座全5回（9月から10月まで）
- ・タイムスケジュール

時間	分	項目
		準備
10:00～10:05	5分	開会あいさつ、福岡市の高齢者の事故状況
10:05～10:15	10分	自己紹介、班長選び
10:15～10:35	20分	「交通脳トレ」 ・間違いさがし
10:35～11:00	25分	「危険予知トレーニング」レベル2 問題1
11:00～11:10	10分	休憩、ストレッチ体操
11:10～11:15	5分	班長の発表
11:15～11:50	25分	「危険予知トレーニング」レベル2 問題2 班長の発表
11:50～11:55	5分	「今日、覚えてほしいこと」読みあげとまとめ
11:55～12:00	5分	おわりのあいさつと次回の案内

● 実績

項目	内容
実施主体	マイマイスクール交通安全センター
担当者	センター長大江久則さん、課長坂口幸介さん、係長小榮健さん
展開内容	<p>地域の高齢者交通安全指導者養成のために実施</p> <p>名称：「脳トレ・リーダー講座」（全5回）</p> <p>内容：1回から4回目まで「交通脳トレ」と「いきいき運転講座」の4種類の交通安全トレーニングを組み合わせ実施。5回目に指導者としての決意表明をしてもらう</p> <p>時間：2時間、参加費無料</p>
回数、参加者数	<p>[指導者研修（全5回）]</p> <p>①2009年8月～9月に福岡市南区で指導者研修「南区交通脳トレ講座」（全5回）を、警察署、区役所、マイマイスクール交通安全センターの3者協力で実施。のべ100人が参加。講習後、参加者が地域の交通安全教育に「いきいき運転講座」の教材を活用。</p> <p>②2011年9月～10月に福岡市中央区で指導者研修「脳トレ・リーダー講座」（全5回）を実施。のべ83人が参加。</p> <p>[指導者研修]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2010年2月に福岡市博多区で指導者研修「いきいき運転講座」を実施。約120人が参加。
募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は、秋の交通安全運動に向けた地域の交通安全指導者対象の説明会で、講座の主旨を説明し、その場で興味のある方に参加要請
費用（1回当たり）	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者用教材「ワークシート」「今日、覚えてほしいこと」のカラーコピー、筆記用具、ネームプレート、ネームカード、講座名を書いた案内版、お茶 ・「交通脳トレ」は、「交通脳トレ3ヵ月お試し版」を日本自動車工業会より無償提供
講座受講者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな意見を聞くことができ、自分で意識していなかったことに気づいた

● インタビュー

地域のリーダーに「いきいき運転講座」の開催法を伝え 高齢者の交通安全を広げたい



マイマイスクール交通安全センター
センター長大江久則さん（左）、課長坂口幸介さん（中央）、係長小榮健さん（右）

自動車教習所は、地域の交通安全教育センターとしての役割が求められています。地域の交通安全リーダーを対象にした「脳トレ・リーダー講座」は、「九州でどの教習所も追従できない地域貢献をしたい」という我々の思いを伝える活動の一つです。

「脳トレ・リーダー講座」の開催は 2009 年に続いて今回で 2 度目です。前は、南区で、今回は中央区でと、私たちの教習所がある 2 つ地域で研修を行いました。

受講されたリーダーのみなさまに、「いきいき運転講座」の指導法をお伝えし、地域に戻って高齢者のみなさまの交通安全に役立てていただきたいというのが私たちの願いです。

前回参加された方は、参加後、すぐに活動を進めていただけました。今回もそれを期待しています。

[講座を行う上でのポイント]

● 高齢者に交通安全を浸透させるには、楽しさが大切

なぜ、地域のリーダーづくりに「いきいき運転講座」を活用しようと考えたか？

高齢者に交通安全を浸透させるためには楽しさが大切です。「いきいき運転講座」は、高齢者が受け入れやすく、楽しい内容であること、歩行者や自転車利用者も参加できる点に注目しました。地域のためになるなら、とにかく 1 回研修をやってみて、うまくいったら続けよう。それが研修スタートのきっかけです。

● 学んだことを地域で生かせる人を対象に

参加者募集にあたっては、学んだことを自立して地域で生かせることを条件にしました。

今回も、交通安全はもちろん、経営者団体にも関係している、影響力のある方に研修に参加していただきました。地域に住む方々だけでなく、会社・団体の従業員の方々にも活動を広げていただける可能性があるからです。

● 最終回には今後の活動に対し「決意表明」を書いてもらう

今回の「脳トレ・リーダー講座」は全部で 5 回です。「いきいき運転講座」には 4 つの交通安全トレーニングがあります。4 回に分けて、指導法を体験していただき、最終回では、感想文を書いていただいた後、今後のみなさまの地域の交通安全活動への活用の仕方について、決意表明をしていただくという流れで進めています。

● 1 回 2 時間かけ、台本通りに進める

研修は 1 回あたり 2 時間。進行役を私たちが務めます。「いきいき運転講座」の台本通り、小グループに分けて、「交通脳トレ」（答え合わせを含めて 20 分）を行った後、危険予知トレーニングなど、交通安全トレーニングを 1 時間以上かけて行っています。

[講座を行う上でのポイント]

● 班長は 1 人に固定せず、毎回変える

「いきいき運転講座」は、班ごとに話し合いながら進めます。話し合いの進行をする班長役は固定せず、毎回別の方にやっていただきました。

どんなふうにすると意見を引き出しやすいか、意見をまとめるにはどうしたらいいかを体験して自信をつけていただくこと、進行役はけしてむずかしいことではないことを知っていただくためです。みなさん、抵抗なく班長の役割を引き受けてくださいました。

● 交通脳トレは自分の成長のために、競争ではないことを強調

交通脳トレは、問題を解く時間を計るせいか競争心が出て、「人より遅いと格好が悪い」というふうになりがちです。3 ヶ月間続けることで、いかに問題を解く時間を減らせるかがポイント。「人との競争ではなく、自分との闘いですよ」と強調します。

交通脳トレは、注意力、集中力や脳の活性化に役立つ、といった意見が多いですね。逆に、注意力、集中力の衰えを実感したという声もあります。

● 少人数の話し合いが大切

この講座の一番の良さは、いろいろな意見を一度に共有できることです。自分と同じ意見が出れば、「やはりこれが大事なのだ」と確認できますし、違う意見が出ると、自分と比較して、考えを深めることができます。

参加者からも、「少人数での討論形式の講習会がよかった。一人ひとりが長年の経験を発言しあい、気づかなかったことがわかり参考になった」という意見が出ています。

人とのかわりの中で刺激を受けることがよいのだと思います。

● 免許のない方も参加してもらい、車、歩行者、自転車それぞれの理解を深める

「いきいき運転講座」は、免許のない方も参加できるところがよいですね。

今日の危険予知トレーニングでは、「車の立場からの意見が聞けて、目線が変わった」という方がおられました。その逆もあるでしょう。

地域に戻ったら、ドライバーに限らず、歩行者、自転車利用者の方にも参加していただき、双方の理解を深めるために、「いきいき運転講座」をやってほしいと伝えています。

● 地域のエピソード、専門的な豆知識を講座の中に入れる

講座の内容を身近に感じていただくために、進行役として、話の中に地域のエピソードを入れるようにしています。

今日の危険予知トレーニングでは、信号機のない交差点の一時停止の問題が出てきました。福岡市の場合、一時停止標識のある交差点で、きちんと止まって安全確認をして通る車は 3% 程度。ゴールド免許を持っている方でも 5% 程度。いかにルールが守られていないかが、いっそう身近な問題として感じてもらえます。

また、高齢者のみなさんは、「停止線が、交差路からは見えにくい場所にわざわざ引いてあるのはなぜか」と疑問を持つ方が多いですね。高齢者のみなさんからよく出る質問に答えるために、進行役として知識を持つようにしています。

● 交通安全リーダーの交替時期に合わせて、研修を続けたい

指導者研修は今後も続けていきたいと思います。地域の交通安全リーダーの方は、3、4 年で交替されます。交替の時期に合わせて、研修を行うのがよいと思います。

南区では 2009 年に指導者研修を行いました。来年くらいに再度研修が開けるとよいと思います。

参加したみなさん

従業員の交通安全教育にも「いきいき運転講座」はいい

交通安全というと、「こういうことをしてください」という話を聞いておしまい。内容も大体いつも同じです。体験学習も年に1回くらいではあまり効果がないように思います。

1回目の講座で聞いた、活動的な人ほど長生きで、さらに交通安全に関心がある、という話は印象的でした。今日のように、交通脳トレに取り組んだり、危険予知トレーニングでたがいに意見を出し合いながら考える、というやり方をしたら、耳の傾け方が違うと思います。

地域の経営者が集まる会のメンバーもしています。従業員の交通安全教育に、「いきいき運転講座」はうってつけとしましたので、取り入れるように話をしてみたいと思います。



中央警察署協議会会長、
福岡県地域交通安全
活動推進委員
進藤澄子さん

話し合う中で、改めて自分の問題に気づかされました



櫻木照久さん



飯田泰雄さん

グループで話し合っているうちに、改めて注意していないことが多いなと気づかされました。信号も左右確認でも、自分は見ているつもりでも、顔をちょっと横に向ける程度。意見を出し合うのはいいことですね。

車の運転は毎日のようにしていますが、みなさんの意見発表を聞いて、あらためて、自分も慣れや過信があったなと反省しました。原点に戻って考えるという気持ちになりました。

[開催風景]



■準備



■開会のあいさつ



■自己紹介
・班ごとに自己紹介



■班長を決める
・班長は毎回違う人が担当する



■交通脳トレ
・他の人と競争するのではなく、
自分のレベルアップが目標で
あることを強調



■危険予知トレーニング
・進め方の説明



・問題1に取り組む。見えている
危険、見えていない危険に印を
つける



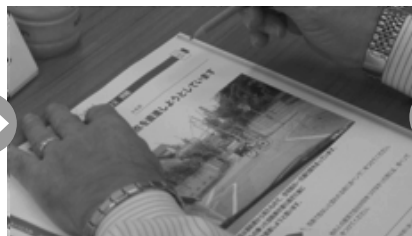
・班ごとに、見えている危険、
見えていない危険がどこにある
か、どんな危険が考えられるか
を話し合う



・班長が、班で出た意見を発表



・休憩の後、ストレッチ体操で
リラックス



・問題2に取り組む。問題1と
同様、危険場面に印をつけた後、
話し合い、さらに、班長が、班
で出た意見を発表



■今日、覚えてほしいこと
・参加者が分担して、読み上げる

「脳トレ・リーダー講座」の参加者に対するアンケート調査

(受講者 15 人対象に 2011 年 10 月実施)

1. 交通安全トレーニングと間違い探しをしていただきました。

感想を自由にご書いてください。

- ・参加してよかった 15

[交通安全トレーニング]

- ・他の人の意見から、自分が考えなかった危険がわかり勉強になった 6
- ・注意力が増した。自分の命は自分で守りたい
- ・他の地域の危険がわかってよかった
- ・高齢者訪問の時に、教わった内容を伝えたい など

[交通脳トレ]

- ・間違い探しは、運転との共通点があつてよかった 8
 - 思い込みが強いと、見るべきものが見えないことがわかった 3
 - 早く探そうと焦った。運転もあわてず、余裕を持っていたい
 - 視線の動かし方が足りないことに気づいた
- ・よく活動する人の方が脳がよく動いている など

2. 交通事故防止にこの講座のどこが役立つと思いますか？

- ・危険予知の大切さを改めて感じた 4
- ・車、自転車、歩行者が互いの行動の理解が必要なことに気づく 4
- ・グループによる話し合いで、自分を客観的に素直に見ることができた
- ・考えることにより頭の整理ができ、脳の活性化のつながる
- ・信号機のない交差点での出会い頭事故や右折事故の多さに気づいた
- ・活動的な日常を過ごすことが交通事故防止につながることに実感できた
- ・リーダー的存在になる人の意識の向上になる など

3. この講座のリーダーとしての自信について書いてください

- ・進んで頑張りたい 2
- ・やれると思う 6
- ・自信はないが、やってみたい 2
- ・自信がないので、もっと講座を受けたい、勉強したい 4
- ・なかなかむずかしい 1

4. その他

- ・ワークショップ形式の講座が、よかった 3
 - 講座はあきがるものだが、今回は充実し楽しく受けた
 - 1 回出席すればいいと思っていたが、参加するたびに楽しく全回参加
- ・他の交通安全推進委員も参加させたかった 2
- ・ひさしぶりに勉強したという気分になりました。
- ・もっと多くの参加者を集め、回数を重ねることが大切

★参加者全員が受講してよかったと答え、3分の2の人がリーダーとして講座開催への意欲を持っている。

セキスイハイム近畿株式会社

社員の交通安全研修に「いきいき運転講座」を活用

——「自分の運転を振り返る」と「危険予知トレーニング」を使って——

● 事例

- ・取材日：2011年10月7日
- ・タイムスケジュール 指導者養成研修

時間	分	項目
		準備
10:00～10:15	15分	開会あいさつ、オリエンテーション
10:15～11:30	75分	チームごとに交通問題提起、解決ミーティングおよび発表
11:30～12:20	50分	昼食
12:20～13:30	70分	「自分の運転を振り返る」レベル1 ・信号機のない交差点での車の通過（20分） ・信号機のない交差点での歩行者・自転車の通過（20分） ・チームごとの発表等（30分）
13:30～13:40	10分	休憩
13:40～14:20	40分	「自分の運転を振り返る」レベル2 ・車間距離（20分）、チームごとの発表等（20分）
14:20～14:25	5分	危険予知トレーニングの説明
14:25～15:15	50分	「危険予知トレーニング」レベル2 ・片側1車線の下り坂（40分）、チームごとの発表等（10分）
15:15～15:25	10分	休憩
15:25～16:15	50分	「危険予知トレーニング」レベル3 ・信号機のある交差点の直進（40分）、チームごとの発表等（10分）
16:15～17:05	50分	ディスカッション：社内事故事例研究とチーム行動目標見直し（40分）、チームごとの発表（10分）
17:05～17:20	15分	自己決定と発表（15分）
17:20～17:30	10分	終礼

● 実績

項目	内容
実施主体	セキスイハイム近畿株式会社安全環境部
担当者	北脇政行さん
展開内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本社、支店、グループ会社を対象にした交通安全教育に「いきいき運転講座」の「自分の運転を振り返る」「危険予知トレーニング」を活用 ・ 指導者研修、新入社員研修、社内の安全風土を構築するための「セーフティドライブコンテスト」のフォロー研修等
回数、参加者数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者研修、新入社員研修、セーフティドライブコンテスト後の研修 9回およそ 180名
募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全環境部が交通安全教育を企画し、各部門に呼びかけ
費用（1回当たり）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講者用教材「ワークシート」「今日のガッテン」「今日、覚えてほしいこと」のカラーコピー費
講座受講者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いを通して、自分の気づけなかったことに気づける

● インタビュー

「いきいき運転講座」のように、コーチングを使った交通安全教育がこれからは必要

セキスイハイム近畿株式会社安全環境部 北脇政行さん



社員だけでなく業務にかかわる関係会社すべての人にケガをさせてはいけないというのが、当社の考え方です。

業務のために多くの社員が車を使いますが、運転は一人で行うもの。安全確保のためには本人の意識や意志がすべてです。交通災害は、建築現場での労災以上に、企業体質や企業風土が深くかかわってきます。

人に教えられるのではなく、話し合いを通して自分の問題点に気づき、行動を変えていく、という「いきいき運転講座」の考え方は、企業の安全風土づくりにとても重要です。

2009年にインターネットでこの教材を知り、新入社員、指導者などの交通安全教育に活用しています。

【講座を行う上でのポイント】

● 教え込むティーチングから気づかせるコーチングへ

一方的に「ここが問題」と話しても、行動はなかなか変わるものではありません。

たとえば、「交差点では一時停止で止まりなさい」といっても、「そんなことはわかっている」と、聞いたふりで終わってしまいがちです。

一方的に教えるのは楽ですが、理解させ、気づかせるのは難しいものです。交通安全の教育は、教え込む「ティーチング」から、気づいていなかったり、潜在意識にしまわれているものを引き出す「コーチング」に移すことが重要だと考えています。

「いきいき運転講座」は、私が望んでいたコーチングを使った教材です。ビデオや写真を使って問題を提起し、グループで話し合い、人の意見を聞くことによって自分の問題を気づかせるという点で、とても使いやすい教材です。

高齢者向けに作られていますが、この教育手法は年齢を問わず使えるものだと思います。

● 考えていることと実際の行動のズレを気づかせる

社員の交通安全研修では、「いきいき運転講座」の2つの項目を活用しています。「危険予知トレーニング」は、自分の運転行動と判断に気づくために、「自分の運転を振り返る」は、人のふりを見てわがふり直すために役立つ教材だと思います。

交通事故や違反を起こすと、その人だけを叱って、罰してきました。他の人は、自分と関係ないと思っていたのです。

そうではなくて、他人の交通事故や違反を、自分の問題として考えてみる必要があるのではないかと感じています。

「危険予知トレーニング」と「自分の運転を振り返る」では、写真やビデオでさまざまな交通場面を見ながら、どんな行動・判断をしているかを、話し合いを通していろんな立場に立って考えることができます。人の意見を聞き、比較するうちに、自分は安全な行動をとっていると考えていても、考えていることと実際の行動にズレがあることに気づいていきます。そこから意識の変化が始まると思います。

● 講座の進め方は体験して覚えてもらう

「いきいき運転講座」の進め方は、まず私が教材を読んで理解し、安全環境部のスタッフに伝えました。

7つの支店でも安全運転研修に「いきいき運転講座」を使えるよう、安全運転管理者を対象にした指導者研修を行いました。

社員向けに「いきいき運転講座」を使った安全運転研修を行うときには、やり方を見て、覚えてもらうために部門の責任者に来てもらうようにしています。

指導者研修は、1日を使って行います（10時から17時30分、42ページ参照）。

[講座を行う上でのポイント]

この中で、「いきいき運転講座」からは、「自分の運転を振り返る」のレベル1、2、「危険予知トレーニング」のレベル2、3を使いました（およそ4時間）。4、5人のグループに分け、ワークシートに記入した後、グループ討議、グループごとの発表という流れで進めます。参加者自身が問題点に気づき、問題点を正しく理解し、指導できるようにすることが目的です。

● 新入社員の安全意識向上に「自分の運転を振り返る」を活用

新入社員の安全運転教育は、「運転スキル」については自動車教習所で、「安全運転の意識づけ」は本社の安全環境部で、と分担しています。

「安全運転の意識づけ」で重要なのは、危険な行動を、意識させることです。新入社員教育で活用しているのが、ビデオを使って行う「自分の運転を振り返る」レベル1の2つの問題です。

一時停止標識のある交差点の通過方法を、自分がドライバーになったつもり、歩行者・自転車利用者になったつもりで見てもらいます。異なる立場の問題を1セットでやると非常におもしろいですね。自分では安全確認のためにきちんと止まっていると思っても、もしかするとビデオに映っている車のように、止まっていないかもしれないと思うようになるのです。

研修時間は2時間程度なので、グループ分けをせず、私たちがリードしながら、全員参加型の対話形式で進めます。短時間でも、運転行動を変化させる動機づけができると、期待しています。

● 「セーフティドライブコンテスト」で「いきいき運転講座」を活用

企業の安全風土づくりのために行っている「セーフティドライブコンテスト」の取り組みでも、「いきいき運転講座」を活用しています。

「セーフティドライブコンテスト」とは、部門単位で、年間の無事故を競うコンテストです。車の運転をしない人も一緒に15~20人程度のグループに分け、誰かが事故や違反をすればマイナス点、一定期間無事故が続けばプラス点を与えます。交通事故や違反は、誰にでも起きうる問題としてとらえてもらうための試みです。

全社で上位3グループを表彰する一方、点数の悪かったグループには、交通安全研修を受けてもらうという仕組みを作っています。

交通安全研修は、午後から半日かけて行います。部門のメンバーを4、5人のグループに分け、ディスカッションと発表を中心にして進めます。その中で、「いきいき運転講座」の「自分の運転を振り返る」と「危険予知トレーニング」を使っています。

「いきいき運転講座」活動好事例

第一刷 平成 24 年 1 月

第二刷 平成 24 年 12 月

発行者 一般社団法人 日本自動車工業会

〒105-0012

東京都港区芝大門 1-1-30

日本自動車会館

<http://www.jama.or.jp/>

「いきいき運転講座」
活動好事例